

所報

No.122
平成29年6月15日

富山県総合教育センター

富山市高田525

E-mail:center@tym.ed.jp(代表)
URL:http://center.tym.ed.jp/

目次

巻頭言	1
今年度の研修事業より	2
調査研究事業の概要	3
特別寄稿(徳橋客員教授)	4
第34回高等学校生徒海外派遣事業帰国報告	4
研修顧問・学力向上アドバイザー・客員教授の紹介	5
キャリア教育指導者養成研修、随想	5
連載「知って得29」	6

巻頭言

研修の大切さ

所長 麦谷 直人



学校では、若い先生が増え、職員室の雰囲気は変化しているように思います。若い先生方の頑張りには頭が下がります。教職経験は浅いながらも、授業や校務に真面目に取り組んでおられ、頼もしく思っています。このように若い先生が輝いているのは、周りの先生方が忙しい中、先輩として、同僚

として、若い先生方を優しく見守り、助け、支えておられるからだろうと思っています。ただ、若い先生方が、授業や分掌の業務、部活動指導等で、忙しく飛び回っておられる姿を見ると、授業等の準備や研究する時間が確保できているのだろうかかと心配になることもあります。

最近では、ベテラン教員の大量退職が見込まれる中、毎年300名以上の教員が採用されています。職場の年齢構成はいびつで、優れた教育理念や指導技術の継承、中堅教員の育成等、様々な課題があります。このような状況のもと、センターでは研修の改善や充実に努めてきており、今年度より2年次教員と11年次教員との「年次交流研修」を実施することになりました。この研修の学びが校内におけるOJTの充実につながることを願っています。

ところで、先日、「教えるということ」という本を読みました。昭和45年の富山県小学校新規採用教員研修会

での大村はまさんの講演を収録した本で、若い頃に読んだ記憶があります。いま読んでみて、いろいろ反省したり考えたりしました。たとえば、しっかり子供に教えていますかという問いかけがあります。国語の読むことの学習で、最初の子供の読みを見ないで、どうして教えることができるのか。黙読で速く読めなければ、情報化時代を子供が生き抜けますか。家庭の問題かもしないが、しっかりと黙読できるように、子供の様子を観察し直さなければならない。また「子供と同じ世界にいない先生は『先生』としては失格だ」とあります。子供は身の程知らずに伸びたい人であり、勉強する苦しみと喜びの中を生きているから、伸びたいという気持ちをもって研究や研修している先生だけが、子供と同じ世界にすることができる。高校で商業科の教員として、地域を支える職業人の育成を目指し指導に当たってきたつもりでしたが、生徒の成長を願い本当に教えていたのか、向上心をもって取り組んできたと言えるのか、反省しています。

昨年12月の中央教育審議会答申には、学習指導要領の理念を実現するための条件整備の一つとして、教員の資質・能力の向上、学校組織全体としての指導力の向上の大切さが謳われていますが、これからも研究と修養に努めていきたいと考えています。

平成29年度初任者研修会・新規採用教職員研修会より



講義「教育公務員としての心構え」



講義「マナーアップ講座で魅力づくり」



講義「教員としての心構え」

- News -

教育資料室をご利用ください。

豊富な教育資料をとりそろえています。目的に応じた資料の検索、閲覧及び貸出をしています。相談にも応じます。

お問合せは (TEL 076 - 444 - 6169) まで。 利用時間 平日 / 8 : 30 ~ 17 : 00



